

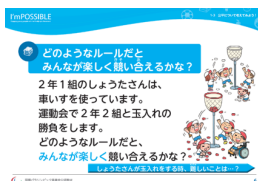
平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【山口県】

1 実践テーマ	【Ⅲ】
2 実施対象者	周南市立福川南小学校 全校・全学年
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（道徳・体育）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用し、道徳授業やガイドランナー体験を通して、パラリンピックについて興味関心をもつことができるようにする。
5 取組内容	<p>① 道徳科「公平について考えてみよう！」</p> <p>車いすの友達が運動会の玉入れに参加するには、どんなルールをつくれればよいかについて考えることで、真の公平とは何かについて議論した。授業開始時、「公平＝みんな同じ、特別扱いなし」というのが学級全体の意見だった。児童が発案したルールは、「他学年の友達が拾って玉を渡す」というもの。「これは、特別扱いではないのか？公平とはみんな同じという意味では？」という教師の発問に対して、「友達の苦手なことを補うのは特別扱いではない。」「真の公平とは、その人思いやることだ。」など授業後の振り返りには、価値に対する変容が見られた。</p> <p>② 体育科「ガイドランナー体験をしよう！」</p> <p>パラリンピックの視覚障害者はどんな世界で過ごしているのか、それを支えるガイドランナーはどんな心構えで伴走しているのかについて実際に体験した。一人では真っ暗な世界で前に進むことさえできない児童が、伴走者の存在によって安心して前に進むことができていた。最後に実際のパラリンピック視覚障害者の100m決勝のレースを視聴し、お互いが息ぴったりと前に進む姿から、そこに至る壮絶な努力・屈強な精神力に気づくことができた。</p>



6 主な成果	「I'm POSSIBLE」を様々な授業に活用したことで、パラリンピックへの興味関心のみならず、スポーツを通じたインクルーシブな社会の実現への意欲も喚起された。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	パラリンピックについて知るだけでなく、困っている相手の気持ちを考えること、実際に体験することなど、活動が単発で終わらないように工夫した。
8主な課題等	教材を実践することを目的化するのではなく、学級・学校全体でインクルーシブな社会の実現に向けて考えるきっかけになるよう、教師が仕組んでいかなければならない。
9来年度以降 の実施予定	今回、オリンピック・パラリンピック教育推進校として、子どもたちの興味関心、運動意欲の向上に少しでもつながっていくよう計画を進めていった。オリンピックを通して、本物に触れることはもちろん大切な経験となるが、地域のスペシャリストを招いたり、様々な授業でオリンピック・パラリンピックに触れたりするだけでも十分な機会となるように思う。またとない2020年に向けて、みんなでスポーツを「する」「観る」「支える」雰囲気を持続してつuckingいきたい。